
ドラえもん 新のび太と鉄人兵団IF

たっくん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもん 新のび太と鉄人兵団IF

【Nコード】

N5165BA

【作者名】

たつくん

【あらすじ】

以前投稿した短編の改訂版です。

ドラえもん達と鉄人兵団の戦いに、警視庁特命係が介入する…。これは映画とは違うIFの物語。

特命係、野比家を訪問する（前書き）

以前投稿した短編の続きを見たいという感想を頂き、執筆に踏み切りました。よろしくお願ひします。

特命係、野比家を訪問する

あらすじ

ふとしたきっかけで巨大ロボットを北極で拾ったのび太とドラえもん。ドラえもんのひみつ道具で作った鏡面世界でロボットを組み立てて遊んでいたが、それが恐るべき威力を持った兵器である事を知る。そしてのび太の前にロボットの持ち主と称する、リルルという少女が現れる。実はリルルは遙か彼方の宇宙から人間を奴隷として捕らえようと企む鉄人兵団の先兵だった。

のび太から借りたお座敷釣り堀を使って鏡面世界に前線基地を建設していたリルルは、真相を知ったのび太とドラえもんを捕らえようとして次元震を起こし、鏡面世界の出入り口だったお座敷釣り堀が破壊された事で鏡面世界に閉じ込められたのだった。

しかしのび太が拾った巨大ロボットの頭脳ジュトから、既に鉄人兵団が地球に向かって来ていることを知らされたのび太とドラえもんは慌てて大人たちにその事を訴えるのだが……。

ここまでが映画の序盤のあらすじ。ここからは作者の考えたIFの物語である。

電話で地球に迫る危機を必死に訴えるのび太とドラえもん。

「本当なんですお巡りさん！！宇宙からロボットが！！」

「マジだって！！」

「ブツッ、ツッ、ツッ、ツッ……」

「切れちゃった」

「手当たり次第にかけてみる！！自衛隊！！総理大臣！！警視庁！！特命係……！！」

いくら必死に訴えても、子供の言うこと、しかもあまりに突飛な内容であるため、誰も信じてはくれなかった。途方にくれた2人はジヤイアンとスネ夫に相談してみる事にし、彼らの遊び場の空き地向かった。

警視庁 特命係。ここは警視庁の中にありながら、特に命ぜられない限り何もしなくて良いとされ捜査権も無い（もつとも事件があれば勝手に捜査して解決しているのだが）、陸の孤島、人材の墓場とも言われる窓際部署である。その2人だけの係員の1人、神戸尊は持っていた受話器を置くと呆れたように愚痴をこぼした。

「全く…いくら暇な部署だからって、子供の悪戯電話がかかって来るなんて…杉下さん、こういうのも特命係ではよくある事だったりするんですか？」

神戸はそう言つて、机で紅茶を飲んでいる上司、杉下右京に声を掛ける。すると右京は尊の方に振り返り、

「はい？」

と返事を返す。

「だから、子供の悪戯電話がかかってきたんですよ。わざわざ特命係を指名してくるなんて、子供にまで知られているんですか？」

「いいえ、むしろ知名度で言うならば警視庁で最も知られていない部署だと思いますよ」

「はあ、そうですね。そんな部署にわざわざ悪戯電話なんて、妙に手がこんでいるというか、何というか」

そう言いながら愛飲している炭酸入りミネラルウォーターに手を伸ばす神戸のぼやきに右京は何かを感じとったのか、神戸に問いかけた。

「神戸君、その電話の子供、どこの誰か名乗りませんでしたか？」

「いえ？だって悪戯電話ですから。名前を言つて親に連絡されたら面倒だと思つて言わなかつたんでしょ」

右京は携帯電話を取り出すと、電話をかけた。相手は友人であり特命係の協力者でもある鑑識の米沢守である。

「あ、もしもし、僕です。少しお願いしたい事が……」

のび太とドラえもんは空き地で話を信じて協力を申し出たジャイアンとスネ夫と鉄人兵団への対策を話し合い、巨大ロボットの頭脳、ジユドを味方につけて情報を聞き出せないかというスネ夫のアイデアを受けて、のび太の家に向かった。そしてのび太の家の前に着くと、そこに二人の男性が立っていた。二人はのび太達に気付くと近付いて、若い男の方が話し掛けて来た。

「こんにちは、ちょっといいかな？この家に住んでいる野比のび太君っていう子供を探しているんだけど、君達知らないかな？」

「のび太は僕ですけど…おじさん達誰？」

「おじ…？」

顔をひきつらせる若い方の男性、神戸に代わり今度は年輩の方…右京が穏やかな口調で答えた。

「失礼。警視庁特命係の、杉下と言います。今日僕たちの所に電話をくれましたね？その事で少し、お話を聞かせて欲しいんですよ」

こうして警視庁特命係の2人は3人の少年と1人のロボットに出会い、地球に迫る危機を知る事になる。

本来この少年達ともう1人の少女のたった5人の戦いだが2人の大人が関わる事でその物語がどのように変わるのか、今はまだわからない…。

予告

ドラえもん達と接触した特命係。彼らはそこでそれまでの常識を逸脱した事象に遭遇する事になる。

神戸「22世紀から来たネコ型ロボット…？」

右京「確かに、常識では有り得ないSFのような話です。しかし、僕はそういった物事を常識だけで否定する気にはなれません」

ドラ「鉄人兵団は日本に向かって来ています!!」

のび太「お願い刑事さん!この事を偉い人に知らせて!!」

右京「残念ですが…」

次回「特命係、地球に迫る危機を知る」

特命係、野比家を訪問する（後書き）

更新は不定期になりますが、よろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5165ba/>

ドラえもん 新のび太と鉄人兵団IF

2012年1月14日11時52分発行